

トマト 使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和7年5月1日現在】

<殺菌剤>

薬剤名	対象病虫害									希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード	
	うどんこ病	灰色かび病	葉かび病	疫病	菌核病	斑点病	輪紋病	すすかび病	その他 病害虫								
バシタック水和剤75									苗立枯病(リゾクトニア菌)	種子重量の0.4%	は種前	1回	種子粉衣	メプロニル	2回以内(但し、種子への処理は1回以内、土壌灌注は1回以内)	7	
										750~1500倍 (3L/m ²)	は種時~子葉展開時	1回	土壌灌注				
リゾレックス水和剤									苗立枯病(リゾクトニア菌)	500倍 (3L/m ²)	は種時	1回	土壌灌注	トルクロホスメチル	1回	14	
										種子重量の0.5%粉衣	は種時	1回	種子粉衣				
ダコニール1000	●	●	●	●		●	●	●	炭疽病、褐色輪紋病	1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	T P N	6回以内(但し、土壌灌注は2回以内、散布、常温煙霧、くん煙及びアザール剤の噴射は合計4回以内)	M05	
プロポーズ顆粒水和剤				●						1000~1500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ベンチアバリカルブ イソプロピル	3回以内	40	
			●							1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	T P N	6回以内(但し、土壌灌注は2回以内、散布、常温煙霧、くん煙及びアザール剤の噴射は合計4回以内)	M05	
パンチョTF顆粒水和剤	●									2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	シフルフェナミド	2回以内	U06	
														トリフルミゾール	5回以内	3	
トリフミン水和剤			●							3000~5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	トリフルミゾール	5回以内	3	
	●							●		3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布				
サンヨール		●	●						アブラムシ類、ハダニ類、コナジラミ類	500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	D B E D C	4回以内	M01 (殺虫殺菌剤)	
	●									500~700倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布				
ハーモメイト水溶剤		●							さび病	800倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素ナトリウム	-	<野菜類該当>	NC
	●									800~1000倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布				

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> トマト

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	うどんこ病	灰色かび病	葉かび病	疫病	菌核病	斑点病	輪紋病	すすかび病							
イオウフロアブル	●								500～1000倍 (100～300L/10a)	発病前～発病初期	-	散布	硫黄	-	F:M02 I:UN
								トマトサビダニ	400倍 (100～300L/10a)	発生初期	-	散布			
セイビアーフロアブル20		●							1000～1500倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	フルジオキシニル	4回以内(但し、種子への処理は1回以内、散布は3回以内)	12
						●			1000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
フルピカフロアブル		●							2000～3000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	メパニピリム	4回以内	9
アミスター20フロアブル		●	●						2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	アゾキシストロビン	4回以内	11
ロブラール水和剤		●							1000～1500倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	イプロジオン	4回以内(但し、種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)	2
						●	●		1000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
			●							200g/10a (5L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	常温煙霧	イプロジオン	4回以内(但し、種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内) <適用場所： 温室、ガラス室、ビニールハウス等の密閉できる場所>
スミレックス水和剤		●							1000～2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	プロシミドン	3回以内	2
スミブレンド水和剤		●							2000倍 (150～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ジエトフェンカルブ	6回以内	10
													プロシミドン	3回以内	2
ゲッター水和剤		●	●		●				1000～1500倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	ジエトフェンカルブ	6回以内	10
													チオファネートメチル	6回以内(但し、種子への処理は1回以内、は種後は5回以内)	1
トップジンM水和剤		●	●		●				1500～2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	チオファネートメチル	6回以内(但し、種子への処理は1回以内、は種後は5回以内)	1
ポリオキシシンAL水溶剤		●	●					アザミウマ類	5000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ポリオキシシン複合体	3回以内	(殺虫殺菌剤) 19

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> トマト

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病虫害									希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	うどんこ病	灰色かび病	葉かび病	疫病	菌核病	斑点病	輪紋病	すすかび病	その他 病虫害							
ダイアメリットDF	●	●	●		●			●	アザミウマ類	1500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	イミノクタジナル ベシル酸塩	3回以内 (殺虫殺菌剤)	M07
														ポリオキシシン複合体		3回以内
ベルコート水和剤		●	●							3000~6000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	イミノクタジナル ベシル酸塩	3回以内	M07
カンタスドライフロアブル		●	●		●					1000~1500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ボスカリド	3回以内	7
スコア顆粒水和剤			●					●		2000倍 (200~400L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ジフェノコナゾール	3回以内	3
サプロール乳剤			●					●		1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	トリホリン	3回以内	3
テーク水和剤	●		●	●						800倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	シメコナゾール	2回以内	3
														マンゼブ	2回以内	F:M03 I:UN
ジマンダイセン水和剤			●	●				●		800倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	マンゼブ	2回以内 (殺虫殺菌剤)	F:M03 I:UN
ダイナモ顆粒水和剤				●						2000~5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	アミスルブロム	4回以内	21
														シモキサニル	3回以内	27
ホライズンドライフロアブル				●						1500~2500倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	シモキサニル	3回以内	27
			●											2500倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内
カスミンボルドー/ カッパーシン水和剤			●	●				●	かいよう病、斑点細菌病、軟腐病	1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	カスガマイシン	5回以内	24
														塩基性塩化銅	-	M01
ランマンフロアブル				●						1000~2000倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	シアゾファミド	4回以内	21

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> トマト

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	うどんこ病	灰色かび病	葉かび病	疫病	菌核病	斑点病	輪紋病	すすかび病	その他 病害虫							
レーバフロアブル				●						1500~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	マンジプロパミド	3回以内	40
フェスティバルC水和剤				●						600~800倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ジメトモルフ	3回以内	40
														塩基性塩化銅	-	M01
Zボルドー				●						400~600倍 (100~300L/10a)	-	-	散布	塩基性硫酸銅	-	M01 - <野菜類(キャベツを除く)該当>
								●	500倍 (100~300L/10a)	-	-	散布				
									軟腐病 500~1000倍 (100~300L/10a)	-	-	散布				
									褐色細菌病、黒腐病、黒斑細菌病、斑点細菌病、べと病 500倍 (100~300L/10a)	-	-	散布				
カリグリーン	●									800~1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素カリウム	-	NC
		●	●						さび病 800倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布				
アフェットフロアブル		●	●		●			●	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ペンチオピラド	3回以内	7	
		●							2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				
ファンタジスタ顆粒水和剤		●	●		●	●		●	2000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ピリベンカルブ	3回以内	11	
									立枯病 2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				
ベルコートフロアブル	●	●	●					●	2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	イミノクタジナルベシル酸塩	3回以内	M07	
ゾーベック エニベル 顆粒水和剤				●					750倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	オキサチアピプロリン	2回以内	49	
													マンゼブ	2回以内	F:M03 I:UN	

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

トマト に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和7年5月1日現在】

<殺虫剤>

薬剤名	対象病虫害										希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブラ ムシ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ハ ダ ニ 類	ト マ ト サ ビ ダ ニ	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ザ ミ ウ マ 類	オ オ タ バ コ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	その他 病虫害							
ダイアジノン粒剤5										ケラ、ネキリムシ類	4~6kg/10a	は種時又は定植時	2回 以内	全面土壌混和又は作条土 壌混和	ダイアジノン	3回以内(但し、生育期は2回以内)	1B
										コガネムシ類幼虫	4~6kg/10a	収穫開始10日前まで	3回 以内	作付前:全面土壌混和又は 作条土壌混和 作物生育中:作条処理して 軽く覆土			
カルホス粉剤										ネキリムシ類	6kg/10a	は種時又は植付時	2回 以内	土壌表面散布土壌混和処 理	イソキサチオン	2回以内	1B
ガードベイトA										ネキリムシ類	3kg/10a	生育初期	3回 以内	株元散布	ペルメトリン	3回以内	3A
パイデートL粒剤										ネコブセンチュウ、 ネグサレセンチュウ	25~50kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	オキサミル	1回	1A
ネマトリンエース粒剤										ネコブセンチュウ	15~20kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	ホスチアゼート	2回以内(但し、定植前の土壌混和は1回以 内、土壌灌注は1回以内)	1B
アドマイヤー1粒剤		●									0.5~1g/株	育苗期後半	1回	株元散布	イミダクロプリド	3回以内(但し、育苗期の株元散布及び定 植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回 以内)	4A
	●	●									1~2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和			
アドマイヤー水和剤	●	●									2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	イミダクロプリド	3回以内(但し、育苗期の株元散布及び定 植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回 以内)	4A
ダントツ粒剤	●	●									1g/株	育苗期	1回	株元処理	クロチアニジン	4回以内(但し、育苗期の株元処理及び定 植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び 定植後の株元散布は合計3回以内)	4A
						●					1g/株	育苗期後半	1回	株元処理			
	●	●	●			●					1~2g/株	定植時	1回	植穴処理土壌混和			
	●										1~2g/株	定植後 (但し、収穫前日まで)	3回 以内	株元散布			
ダントツ水溶剤	●	●									2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	クロチアニジン	4回以内(但し、育苗期の株元処理及び定 植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び 定植後の株元散布は合計3回以内)	4A
			●								2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> トマト

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病虫害										希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ハ ダ ニ 類	ト マ ト サ ビ ダ ニ	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ザ ミ ウ マ 類	オ オ タ バ コ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	その他 病虫害							
モスピラン粒剤		●									1g/株	定植前日～定植当日	1回	株元散布	アセタミプリド	4回以内(但し、粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計3回以内)	4A
	●	●							トマトハモグリバエ	1g/株	定植時	1回	植穴土壌混和				
	●									0.5g/株	生育期 (但し、収穫前日まで)	3回 以内	株元散布				
モスピラン水溶剤	●	●				●					2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	アセタミプリド	4回以内(但し、粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計3回以内)	4A
ベストガード粒剤	●	●									5g/培土L	は種時又は鉢上げ時	1回	育苗培土混和	ニテンピラム	4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、定植後は3回以内)	4A
	●	●								1～2g/株	育苗期	1回	株元処理				
	●	●	●							セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5～4L)当り50g	育苗期後半	1回	散布				
	●	●								1～2g/株	定植時	1回	植穴処理土壌混和				
			●							2g/株	定植時	1回	植穴処理土壌混和				
ベストガード水溶剤	●	●				●			クロバネキノコバエ類	1000～2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ニテンピラム	4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、定植後は3回以内)	4A	
スミチオン乳剤	●								オオニジュウヤホシテントウ	2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	MEP	2回以内	1B	
アグロスリン乳剤	●								オンシツコナジラミ	2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	シペルメトリン	5回以内	3A	
バリアード顆粒水和剤	●	●								2000～4000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	チアクロプリド	3回以内	4A	
チェス水和剤	●	●								3000倍 (150～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ピメトロジン	4回以内(但し、育苗期の株元散布及び定植時の植穴処理は合計1回以内、散布は3回以内)	9B	
コルト顆粒水和剤	●	●								4000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ピリフルキナゾン	3回以内	9B	

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> トマト

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (使用流量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード	
	ア ブラ ムシ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ハ ダ ニ 類	ト マ ト サ ビ ダ ニ	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ン キ ウ マ	オ オ タ バ コ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ								その他 病害虫
ウララDF	●										2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	フロニカミド	3回以内	29
		●					●				2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布		3回以内	
	●	●									100~150g/10a (10L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	常温煙霧		3回以内	
アルバリン顆粒水溶剤/ スタークル顆粒水溶剤									カメムシ類	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ジノテフラン	5回以内(但し、培土混和及び灌注は合計1回以内、育苗期の株元散布は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)	4A	
		●								2000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布				
										100倍 (セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊(30×60cm・使用 土壌約1.5~4.0L)当り 0.5L)	鉢上時又は定植時	1回	灌注				
サフオイル乳剤	●			●						300~500倍 (100~500L/10a)	収穫前日まで	-	散布	調合油	-	NC	
		●			●				チャノホコリダニ、うどんこ病	300倍 (100~500L/10a)	収穫前日まで	-	散布				(殺虫殺菌剤)
コロマイト乳剤		●	●		●					1500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ミルベメクチン	2回以内	6	
マッチ乳剤							●			2000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	ルフェヌロン	4回以内	15	
								●		3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布				
						●				1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布				
		●			●					2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布				
			●							1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布				
アニキ乳剤			●		●			●	●	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	レピメクチン	3回以内	6	
		●					●			1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				
									トマトキバガ	1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> トマト

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病虫害									希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ハ ダ ニ 類	ト マ ト サ ビ ダ ニ	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ ア カ ン キ ウ マ	オ オ タ バ コ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ							
クリアオール水和剤		●			●	●	●			2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	アクリナトリン	3回以内	3A
														スピロメシフェン	2回以内	23
アーデント水和剤						●	●			1000倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	アクリナトリン	3回以内	3A
トリガード液剤			●							1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	シロマジン	3回以内	(昆虫成長制御剤) 17
スピノエース顆粒水和剤			●		●		●			5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピノサド	2回以内	5
プレオフロアブル			●				●	●	シロイチモジヨトウ、 トマトキバガ	1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ピリダリル	2回以内	UN
マイトコーネフロアブル				●	●					1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	1回	散布	ビフェナゼート	1回	20D
コテツフロアブル					●	●	●		ナミハダニ、トマトキ バガ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	クロルフェナピル	3回以内	13
カスケード乳剤		●			●			●		4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	フルフェノクスロン	4回以内	(昆虫成長制御剤) 15
							●		マメハモグリバエ	2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布			
						●			トマトハモグリバエ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布			
アフーム乳剤		●	●		●		●		トマトキバガ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	エマメクチン安息 香酸塩	5回以内	6
ファルコンフロアブル								●		4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	メトキシフェノジド	2回以内	(昆虫成長制御剤) 18
							●			2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
フェニックス顆粒水和剤							●	●		2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	フルベンジアミド	2回以内	28
									トマトキバガ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> トマト

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病虫害									希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード		
	ア ブラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ハ ダ ニ 類	ト マ ト サ ビ ダ ニ	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ザ ミ ウ マ 類	オ オ タ バ コ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ								その他 病害虫	
ベリマークSC	●	●	●			●				トマトキバガ	400株当り25mL (400株当り10~20L) (1株当り25~50mL)	育苗期後半~定植当日	1回	灌注	シアントラニリ プロール	5回以内(定植時までの処理及び定植直後の 株元灌注は合計1回以内、定植後の株元 灌注は1回以内、定植後の散布は3回以内)	28	
		●									400株当り25mL (400株当り20~200L) (1株当り50~500mL)	定植直後	1回	株元灌注				
		●										200倍 (#参照)	育苗期後半~定植当日	1回				灌注
		●										10000倍 (1~3L/m ²)	定植14日後まで	1回				株元灌注
ディアナSC		●									2500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピネトラム	2回以内	5	
			●			●	●	●	●	トマトキバガ	2500~5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布				
ベネビアOD	●	●	●			●				トマトキバガ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	シアントラニリ プロール	5回以内(但し、定植時までの処理及び定植 直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の 株元灌注は1回以内、定植後の散布は3回以 内)	28	
								●			2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				
モスピラン顆粒水溶剤	●	●				●					2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	アセタミプリド	4回以内(但し、粒剤の定植時までの処理 は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元 散布は合計3回以内)	4A	
トルネードエースDF								●	●	トマトキバガ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	インドキサカルブ	2回以内	22A	
プレバソフフロアブル5			●								1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	クロラントラニリ プロール	4回以内(但し、定植時までの処理は1回以 内、散布は3回以内)	28	
								●		トマトキバガ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				
		●	●								トマトキバガ	100倍 (1株当り25mL)	育苗期後半~定植当日	1回				灌注
		●	●									200倍 (1株当り50mL)	育苗期後半~定植当日	1回				灌注
イオウフロアブル										うどんこ病	500~1000倍 (100~300L/10a)	発病前~発病初期	-	散布	硫黄	-	F:MO2 I:UN (殺虫殺菌剤)	
					●						400倍 (100~300L/10a)	発生初期	-	散布				

: セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4L)当り0.5L

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農業を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農業の誤った使用を行わないようにしてください。

※農業散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

トマト に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和7年5月1日現在】

<除草剤>

薬剤名	対象雑草	使用量・薬量 (希釈水量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
タッチダウンiQ	一年生雑草	250~500mL/10a (25~50L/10a)	耕起7日以前 (雑草生育期)	1回	雑草茎葉散布	グリホサートカリ ウム塩	3回以内	9
		250~500mL/10a (25~100L/10a)	畦間処理:雑草生育期 (但し、収穫前日まで)	3回 以内	雑草茎葉散布			
クレマートU粒剤	一年生雑草	4~6kg/10a	定植活着後(雑草発生前) (但し定植10日後まで)	1回	畦間株間土壌散布	ブタミホス	1回	3
ラウンドアップマックス ロード	一年生雑草	200~500mL/10a ・通常散布50~100L/10a ・少量散布5~50L/10a	耕起前まで (雑草生育期)	1回	雑草茎葉散布	グリホサートカリ ウム塩	3回以内	9
トレファノサイド粒剤2.5	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、 キク科、アブラナ科を除く)	4~5kg/10a	定植前(植穴掘前)	1回	全面土壌散布	トリフルラリン	1回 <露地栽培に限る>	3
トレファノサイド乳剤	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、 キク科、アブラナ科を除く)	200~300mL/10a (100L/10a)	定植前(植穴掘前)	1回	全面土壌散布	トリフルラリン	1回 <露地栽培に限る>	3
		200~300mL/10a (100L/10a)	定植直後	1回	畦間土壌散布			
ナブ乳剤	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	150~200mL/10a (100~150L/10a)	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉 期)(但し収穫14日前まで)	1回	雑草茎葉散布又は全面 散布	セトキシジム	1回	1

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。